

令和2年11月29日（於 畿央大学）

日本道德教育学会第96回（2020年度秋季）大会 自由研究発表

第11分科会 ⑤14:10～14:40

道德教育全国調査の実施（2020.3）と結果分析（2） —自由記述の分析—



押谷由夫(武庫川女子大学大学院・教授)

木崎ちのぶ(武庫川女子大学大学院・院生)

谷山優子(武庫川女子大学大学院・院生)

○齋藤道子(武庫川女子大学大学院・院生)

○矢作信行(武庫川女子大学大学院・院生)

○小山久子 (大阪芸術大学・特任教授)

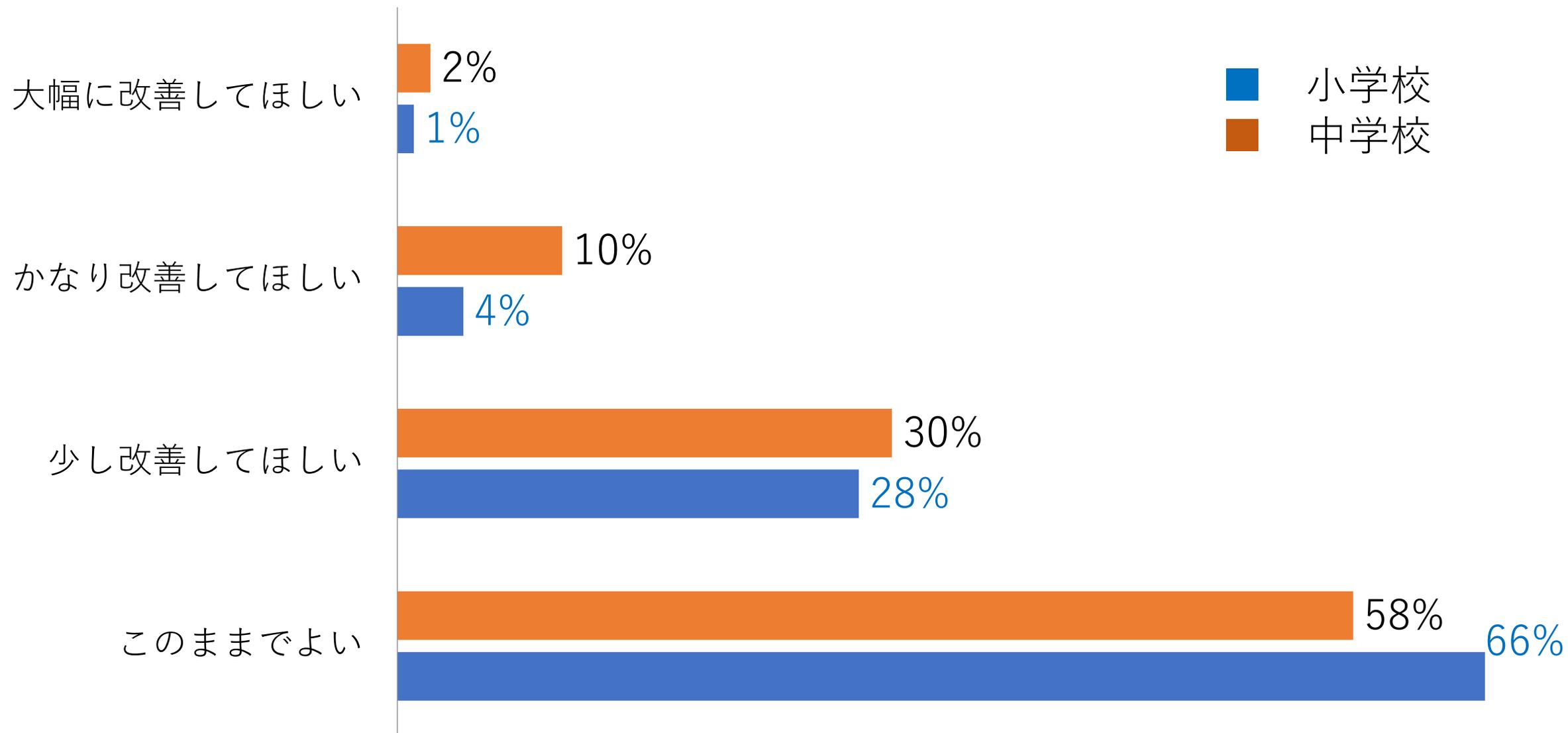
醍醐身奈 (目白大学・専任講師)



(1) 現在使っている教科書について

武庫川女子大学大学院 齋藤道子

現在使用している教科書について



教科書そのものについての記述内容



<教科書そのものについての記述内容・上位順①表>

- ◆ もっと身近な話題や関心が持てるものを取り上げてほしい (3 3)
- ◆ 内容が難しい・児童生徒の発達段階に合わせてほしい (3 1)
- ◆ 教材文の分量を少なくしてほしい・長すぎる (3 1)
- ◆ 子供がもっと自分で考えられる教材にしてほしい (1 8)
- ◆ 内容項目が目立ち過ぎる・価値の押し付けになっている (1 8)
- ◆ 内容と道徳的価値・ねらい等を合わせてほしい (1 7)
- ◆ 挿絵のイラストや色彩の工夫してほしい (1 4)
- ◆ 葛藤のある教材を増やしてほしい (1 0)
- ◆ もっと多くの教材から選択できるようにしてほしい (8)
- ◆ 教科書に発問や考える視点等を入れないでほしい (7)
- ◆ 学校や地域の実態に即した教材を使わせてほしい (6)
- ◆ 文中に答えが書いていないものを増やしてほしい (5)
- ◆ 動画やDVDが見られるよう工夫してほしい (5)

<教科書そのものについての記述内容・上位順①表>

- ◆ 問題解決的な内容を増やしてほしい (4)
- ◆ 教材数や説明を増やしてほしい (4)
- ◆ ソーシャルスキルの内容を増やしてほしい (3)
- ◆ 子供がもっと議論できる内容を入れてほしい (3)
- ◆ 教材の並び順を工夫してほしい (3)
- ◆ 家族やいのち等の教材は多様な家庭環境に配慮してほしい (3)
- ◆ 登場人物の名前やカタカナの名前を分かりやすくしてほしい (3)
- ◆ 実在の人物の生き方についての教材を増やしてほしい (3)
- ◆ 内容項目を減らしてほしい (1)
- ◆ もっと多くの教材から選択できるようにしてほしい (1)
- ◆ 誰もが授業ができる内容にしてほしい (1)

<各項目と関連する記述を加えたより詳細な記述内容のまとめ>

- ◆内容に関心や興味が持てない・児童生徒の実態に合わない・心に響く感動的な教材が少ない等の理由から、教材を **もっと児童生徒にとって身近な話題や関心が持てる内容を求める意見 (33)**が多い。
- ◆特に中学生の教材は一度読んで内容を理解するのが難しい・発達段階に合っていない等の理由から、**内容理解がしやすく発達に即した教材を求める意見 (31)**が多い。
- ◆特に高学年・中学校の教材文が長いいため考えさせる時間が十分にとれない・取り扱う内容項目が多い等の理由から、**教材文を短くして欲しいとの意見 (31)**が多い。
- ◆道徳的価値に対して誘導的・押し付け的・教え込み的な感じがある・もっと**児童生徒の多様な意見を引き出せるような内容にして欲しいとの意見 (18)**も比較的多い。
- ◆葛藤のある教材 (10)・問題解決型の教材 (4) を求める意見等から、**児童生徒がもっと考えを深められる教材を求める意見 (18)**も比較的多い。
- ◆教材の内容と道徳的価値・ねらいが合致していない・展開が難しい等との理由から更なる**教材の吟味と精選を求める意見 (17)**も比較的多い。
- ◆時代背景が古く、児童生徒が理解しにくかったり、内容に入りにくかったりしている・もっと現代的な課題を取り上げて欲しい等の理由から、今の**児童生徒の実態に即した教材の内容を求める意見 (17)**も比較的多い。

指導書についての 記述内容



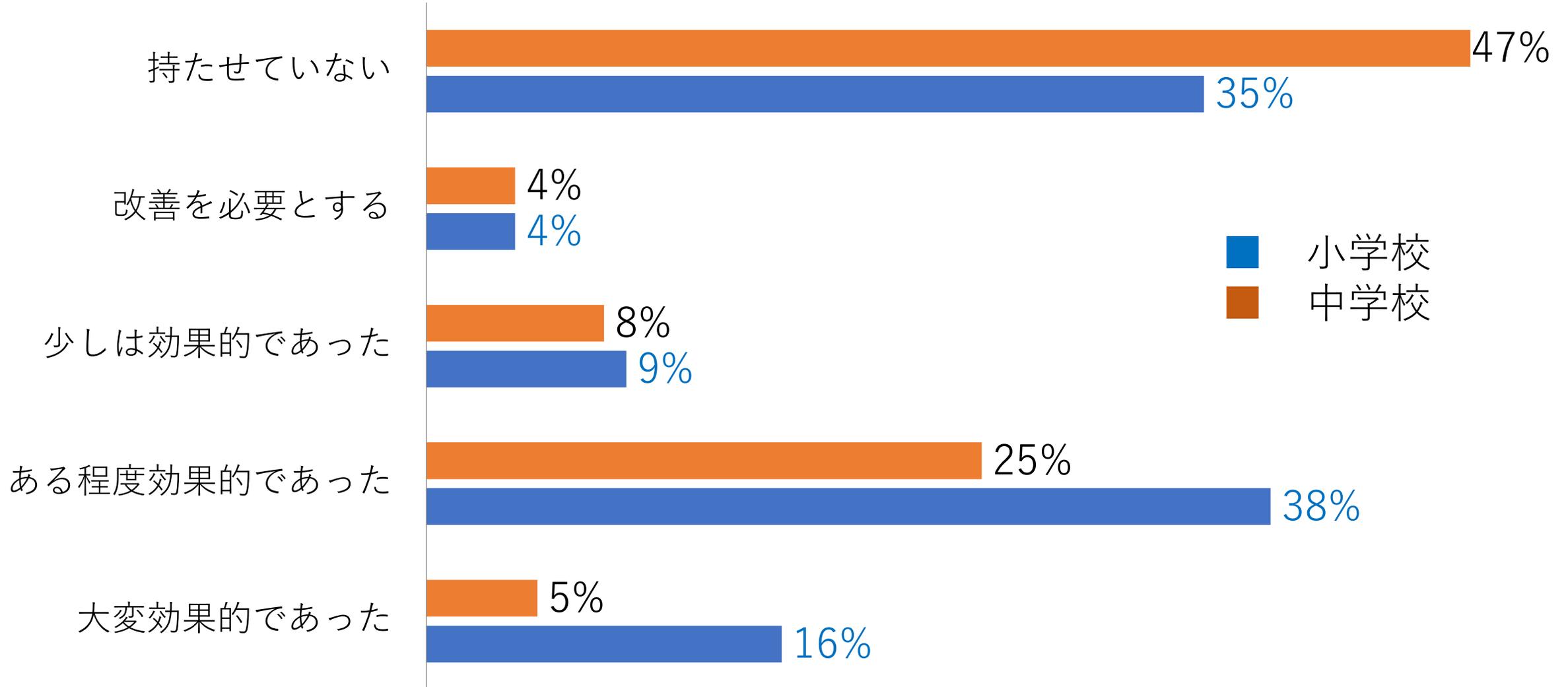
< 指導書に対する記述内容・上位順 >

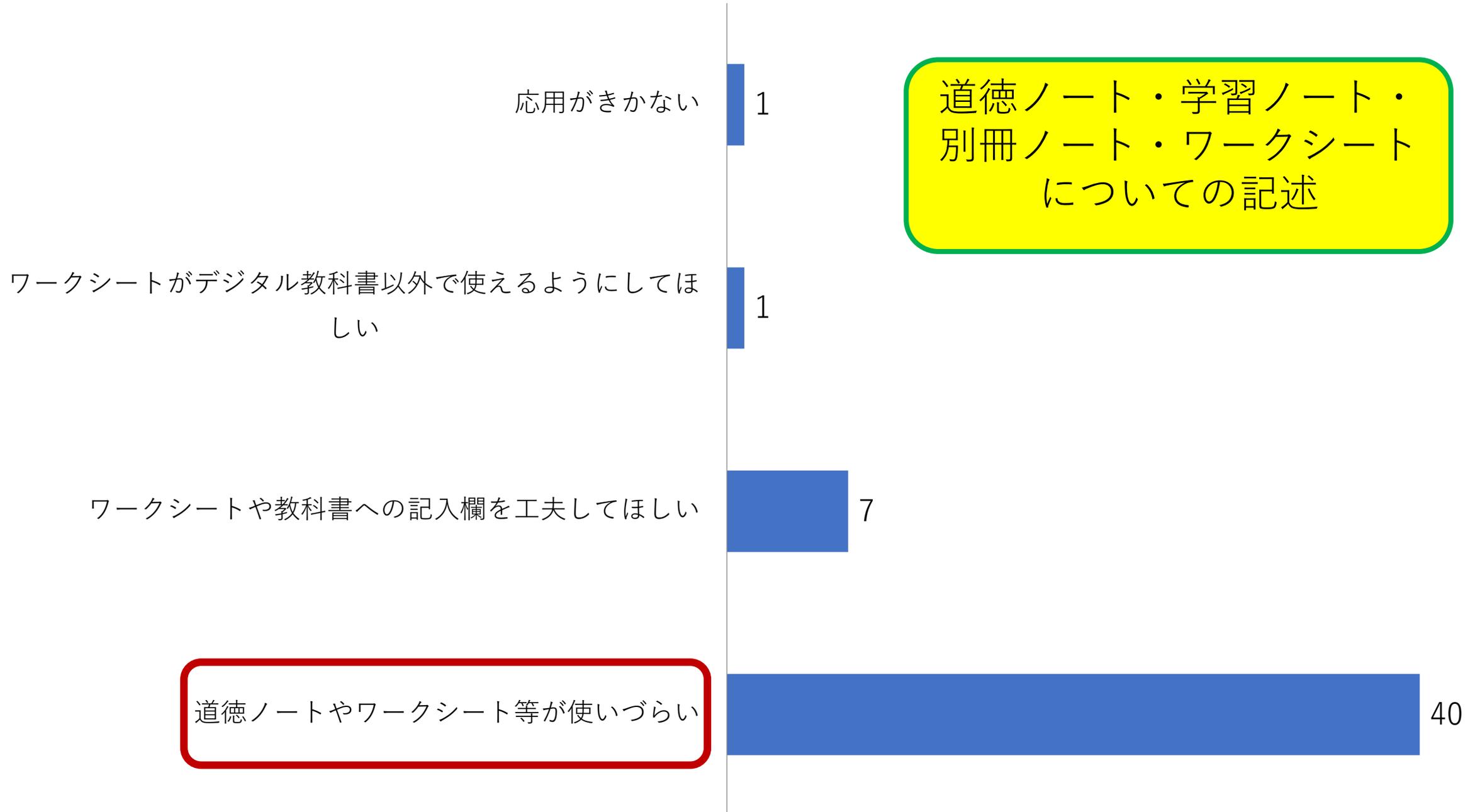
- ◆ 発問が児童生徒の考えから離れている・難しい (16)
- ◆ 発問がねらいを意識し過ぎている (11)
- ◆ 一つの教材に様々なバリエーションを持たせた発問や展開がほしい (6)
- ◆ 発問が多すぎる (6)
- ◆ 議論できる発問を載せてほしい (2)
- ◆ 終末では教材から離れて考える発問例や展開例の工夫 (2)
- ◆ 児童生徒の考えが深まるような発問を工夫してほしい (1)
- ◆ ねらいと指導がつながるような展開を工夫してほしい (1)
- ◆ 評価に係る児童の反応例をもっと入れてほしい (1)
- ◆ 内面的資質を重点的に育む指導書にしてほしい (1)

<各項目と関連する記述を加えたより詳細な記述内容のまとめ>

- ◆指導書の展開に準じて授業を行っている教員の意見として、発問が児童生徒の実態にそぐわない・深まらない・難しい等との理由から、**発問の更なる吟味と精選を求める意見（16）**が多く見られる。
- ◆指導書の発問が、ねらいを意識し過ぎるため児童生徒の多様な意見が出にくい・ねらいと発問が合っていない・展開に無理がある・流れが児童生徒の思考の流れに合わない等の理由から、**発問がねらいを意識し過ぎている**という意見（11）も多く見られる。
- ◆指導書に一つの展開や発問例を載せるのではなく、**様々なバリエーションを考えた指導例を載せてほしい**との意見（6）も比較的多く見られる。
- ◆指導書の**発問の数が多過ぎる**との意見（6）も比較的多く見られる。
- ◆**終末での教材を離れた展開例や具体的な発問例**を求める意見（2）も見られる。
- ◆議論できる発問（2）・児童生徒の考えが深まる発問（1）・ねらいと展開が一致する発問（1）・評価に係る児童生徒の反応例の掲載（1）・内面的資質を重点的に育む指導書（1）を求める意見も見られる。

道徳ノートは効果的だったか





<道徳ノート・学習ノート・別冊ノート・ワークシートに対する記述内容・上位順>

- ◆ 道徳ノートやワークシート等が使いづらい (40)
- ◆ ワークシートや教科書への記入欄を工夫してほしい (7)
- ◆ ワークシートがデジタル教科書以外で使えるようにしてほしい (1)
- ◆ 応用がきかない (1)

<各項目と関連する記述を加えたより詳細な記述内容のまとめ>

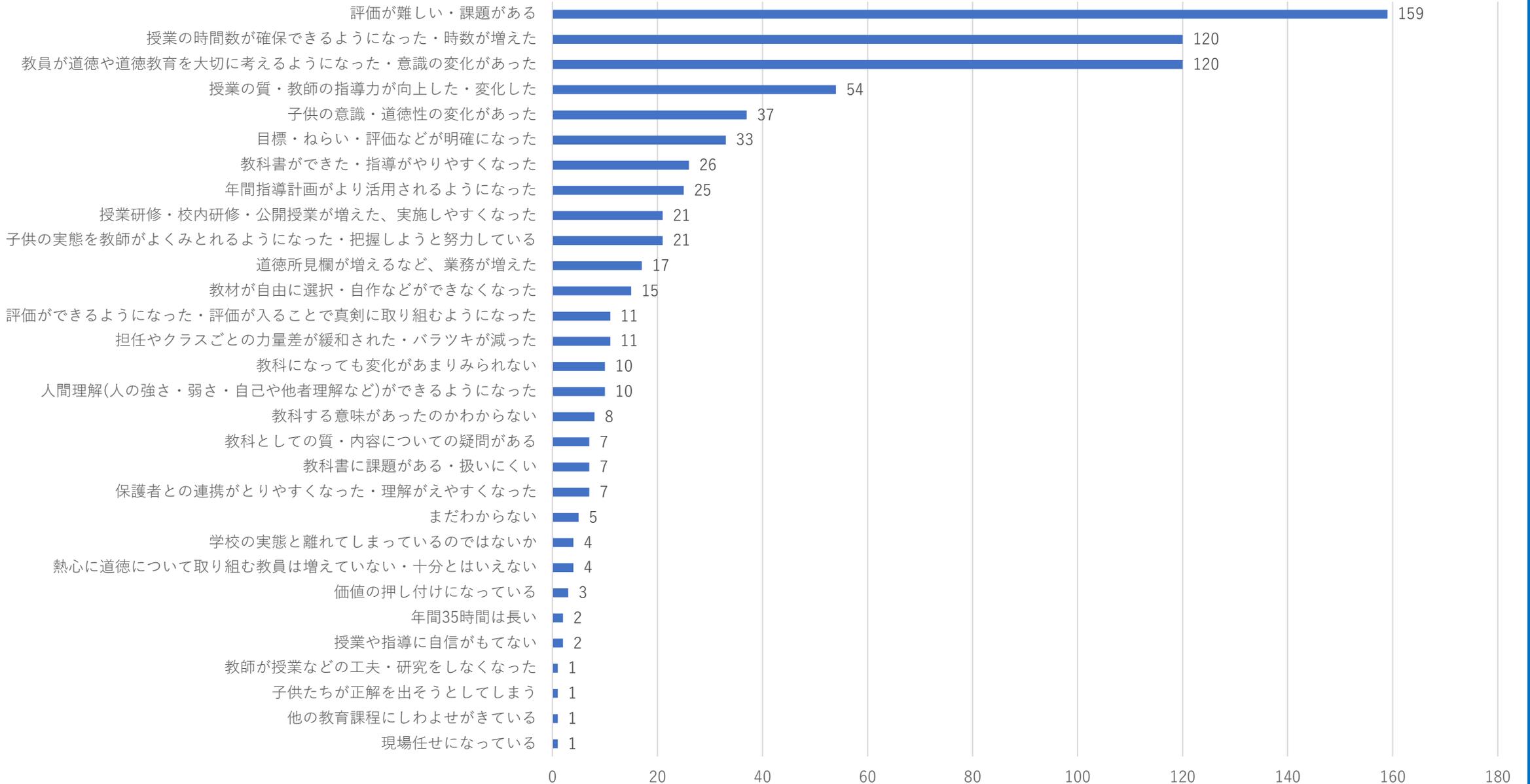
- ◆ 「道徳ノートやワークシートの使いづらさ」に寄せられた意見には、道徳ノートに発問が記載されているため教師が考えた発問と異なる時に使えない・記入欄のスペースが児童生徒の実態に合あわせられない・道徳ノートに発問が書いてあるため誘導的になる・書くことが多くて話し合う時間が取られる・自由記述にした方がよい・教科書と一体型の学習ノートがよい等の理由から、全体として道徳ノート等は使いづらいとの意見がかなり多く見られた。



**(2) 道徳の時間が「特別の教科 道徳」
になったことについて**

武庫川女子大学大学院 矢作信行

道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことについて（意見の全体について図にしたもの）



(2) 道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことについて

1 道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことについて、あなたのご意見をお聞かせください。

(多い順に挙げると次のような意見があります)

- ・ 評価が難しい・課題がある (150)
 - ・ 教員が道徳や道徳教育を大切に考えるようになった・意識の変化があった (120)
 - ・ 授業の時間数が確保できるようになった・時数が増えた (120)
 - ・ 授業の質・教師の指導力が向上した・変化した (54)
 - ・ 子供の意識・道徳性の変化があった (37)
 - ・ 目標・ねらい・評価などが明確になった (33)
 - ・ 教科書ができた・指導がやりやすくなった (26)
 - ・ 年間指導計画がより活用されるようになった (25)
 - ・ 子供の実態を教師がよくみとれるようになった・把握しようと努力している (21)
 - ・ 授業研修・校内研修・公開授業が増えた、実施しやすくなった (21)
 - ・ 道徳評価欄が増えるなど、業務が増えた (17)
- 等

- ・ 評価が難しい・課題がある（150）
- ・ 教員が道徳や道徳教育を大切に考えるようになった・意識の変化があった（120）
- ・ 授業の時間数が確保できるようになった・時数が増えた（120）

- ・ 評価に関する課題を多くの教員が抱えている。この傾向は今後も続くと考えられる。
- ・ 道徳教育に対する教員の捉え方の変化があらわれたことが窺われる。やらなくてはいけないという意識の変化は、今後の道徳教育の充実につながると考えられる。
- ・ 特に中学校では、時間の確保が指導の充実に繋がっていくと考えられる。

- ・ 授業の質・教師の指導力が向上した・変化した（54）
- ・ 子供の意識・道徳性の変化があった（37）
- ・ 目標・ねらい・評価などが明確になった（33）

- ・ 時間の確保や意識の高揚が授業の質や指導力の向上に繋がったと考えられる。
- ・ 子供の意識や道徳性の向上について37の意見があったことは、「特別の教科 道徳」の設置の効果があったと言えよう。
- ・ 目標・ねらい・評価を意識した実践が多く見られようになったと言える。

- ・教科書ができた・指導がやりやすくなった（26）
- ・年間指導計画がより活用されるようになった（25）
- ・子供の実態を教師がよくみとれるようになった・把握しようと努力している（21）

- ・教科書ができたことにより、指導がやりやすくなったと考える教師が多いことが窺える。
- ・年間指導計画にそって学習を進めればよいという安心感が、教員の中に見られるようになったと考えられる。
- ・評価との関連も考えられるが、子供をしっかりと捉えようとする教師の姿勢が見られる。

- ・ 道徳評価欄が増えるなど、業務が増えた（17）
- ・ 教科になってもあまり変化が見られない（10）
- ・ 教科にする意味があったのかわからない（8）

- ・ 仕事量の増加が気になる教員がいることが窺える
- ・ 教科になった意味を実感できていない教員もいることが読み取れる。

道徳の時間が「特別の教科 道徳」になったことについてのまとめ

- ・ 全体的には好意的に受けとめている教員が多い。
- ・ 「特別の教科 道徳」になったことで教員の意識が変わったことが記述から読み取れる。
- ・ 実践を通して子供に変化が見られたことで、より前向きに受けとめている教員が多い。
- ・ 課題としては、効果を十分受けとめることができない教員や仕事の負担増に困っている教員もいることが窺える。



**(3) 道徳教育と「特別の教科 道徳」の充実に関して
「ぜひ伝えたいこと」「要望」「意見」「その他」**

大阪芸術大学・特任教授
(武庫川女子大学大学院)
小山久子

テキストマイニング「KH coder」とは・・・

- 文書や文字列を統計学的に計量化する技法
- アンケートの自由記述等に広く利用
- 主観的判断ではなく、より客観的な分析を可能とする
- 代表的フリーソフトウェアとして「KH coder」を活用

○活用する分析法

- ①抽出語リスト(抽出された語、その出現頻度を確認する)
- ②「抽出語」の共起ネットワーク(抽出語間の関連性とその強さを俯瞰する)
- ③「関連語検索」(注目する「語」に視点をあてて分析する)
- ④「外部変数」の共起ネットワーク(「語」と外部変数の関連性とその強さを分析する)

※全ての分析におけるKWICコンコーダンス

(本文から「語」を検索してその使われ方を確認する)

1 令和元年度 抽出語リストから読み取れること

(どのような語が抽出されるか、出現回数は何回かの確認からわかること)

図1 令和元年度抽出語リスト(1 ぜひ伝えたいこと)

○各質問項目における上位10語の比較

#	抽出語	品詞/活用	頻度
1	道徳	名詞	148
2	授業	サ変名詞	72
3	思う	動詞	71
4	教育	サ変名詞	46
5	評価	サ変名詞	44
6	時間	副詞可能	40
7	教科	名詞	38
8	学校	名詞	31
9	教材	名詞	30
10	教師	名詞	25
11	研究	サ変名詞	24
12	先生	名詞	24
13	教員	名詞	23
14	大切	形容動詞	23
15	指導	サ変名詞	22
16	教科書	名詞	21
17	子ども	名詞	21
18	考える	動詞	20
19	必要	形容動詞	20
20	現場	名詞	18
21	多い	形容詞	18
22	充実	サ変名詞	16
23	研修	サ変名詞	15
24	行う	動詞	15
25	感じる	動詞	14
26	力	名詞C	13
27	使う	動詞	12
28	生徒	名詞	12

1.ぜひ伝えたいこと ※時間・学校は新出語でもある
 「道徳」「授業」「思う」「教育」「評価」
 「時間」「教科」「学校」「教材」「教師」

2.要望
 「道徳」「授業」「思う」「評価」「指導」
 「教育」「教材」「研修」「資料」「教科」

3.意見 ※子どもは新出語でもある
 「道徳」「評価」「思う」「授業」「教育」
 「教科」「子ども」「必要」「感じる」「教員」

4.その他
 「道徳」「思う」「教科」「授業」「教師」
 「評価」「教員」「指導」「感じる」「担任」

青字は全質問項目に見られる共通抽出語
 赤は昨年度にない新出語、緑は質問項目独自の抽出語

- 「研修」は、昨年度は、質問4項目中3項目に出現していたが、今年度は、「2.要望」のみ。
- 平成30年度
 - ・小中学校共に新しい道徳科に向けて取り組まれていた様子が伺われた。
 - 令和元年度
 - ・時間の確保の難しさ
 - ・授業の進め方についての研修の機会が必要
 - ・文科省からの指導資料の配信、教科書の充実を強く望む記述
 - ・クラス担任の限界
 - ・大きな負担感

2 令和元年度 4項目一括・共起ネットワーク

1 道徳科推進における概要

6 道徳科への力の入れ方

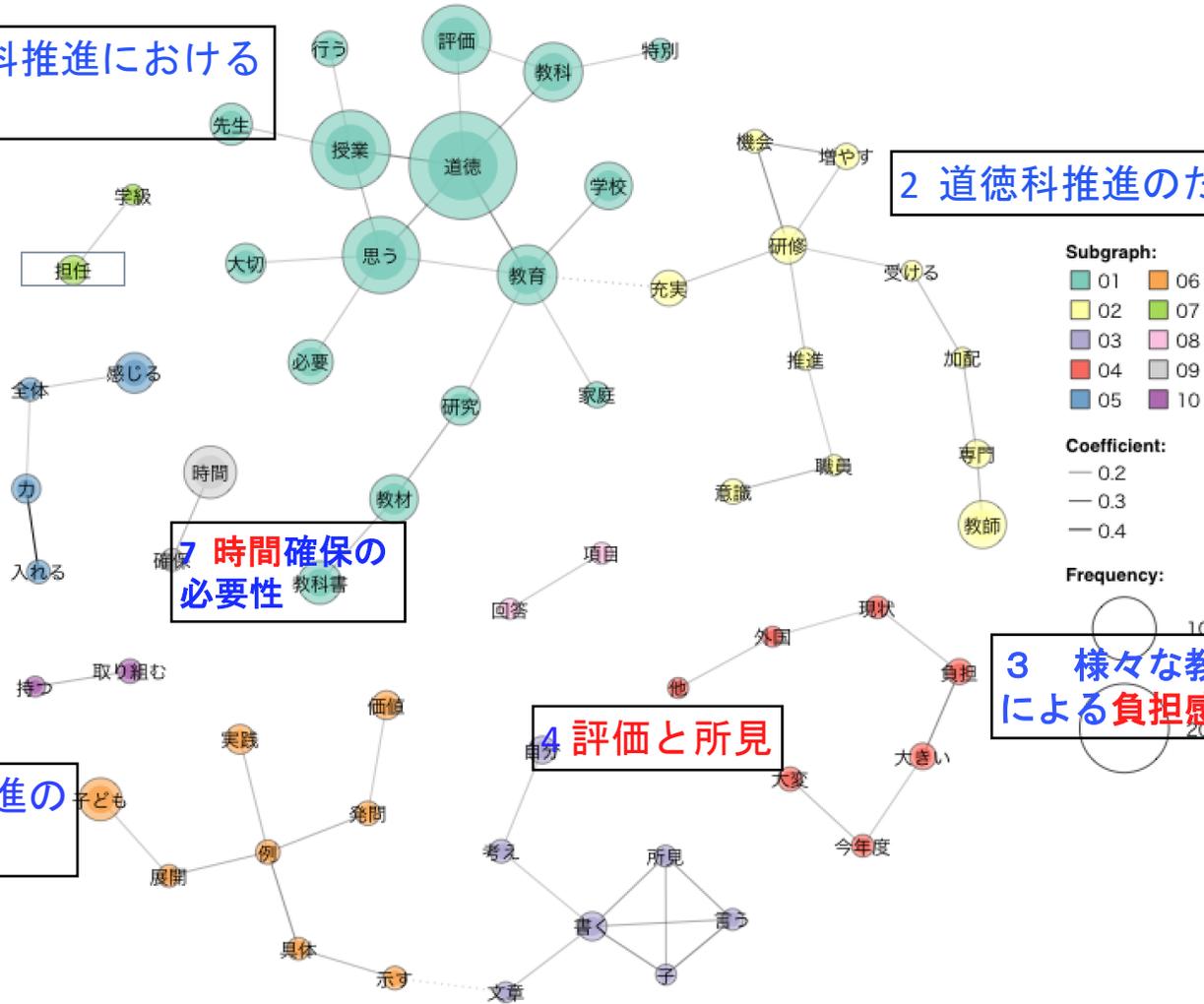
7 時間確保の必要性

5 道徳科推進の具体的方策

4 評価と所見

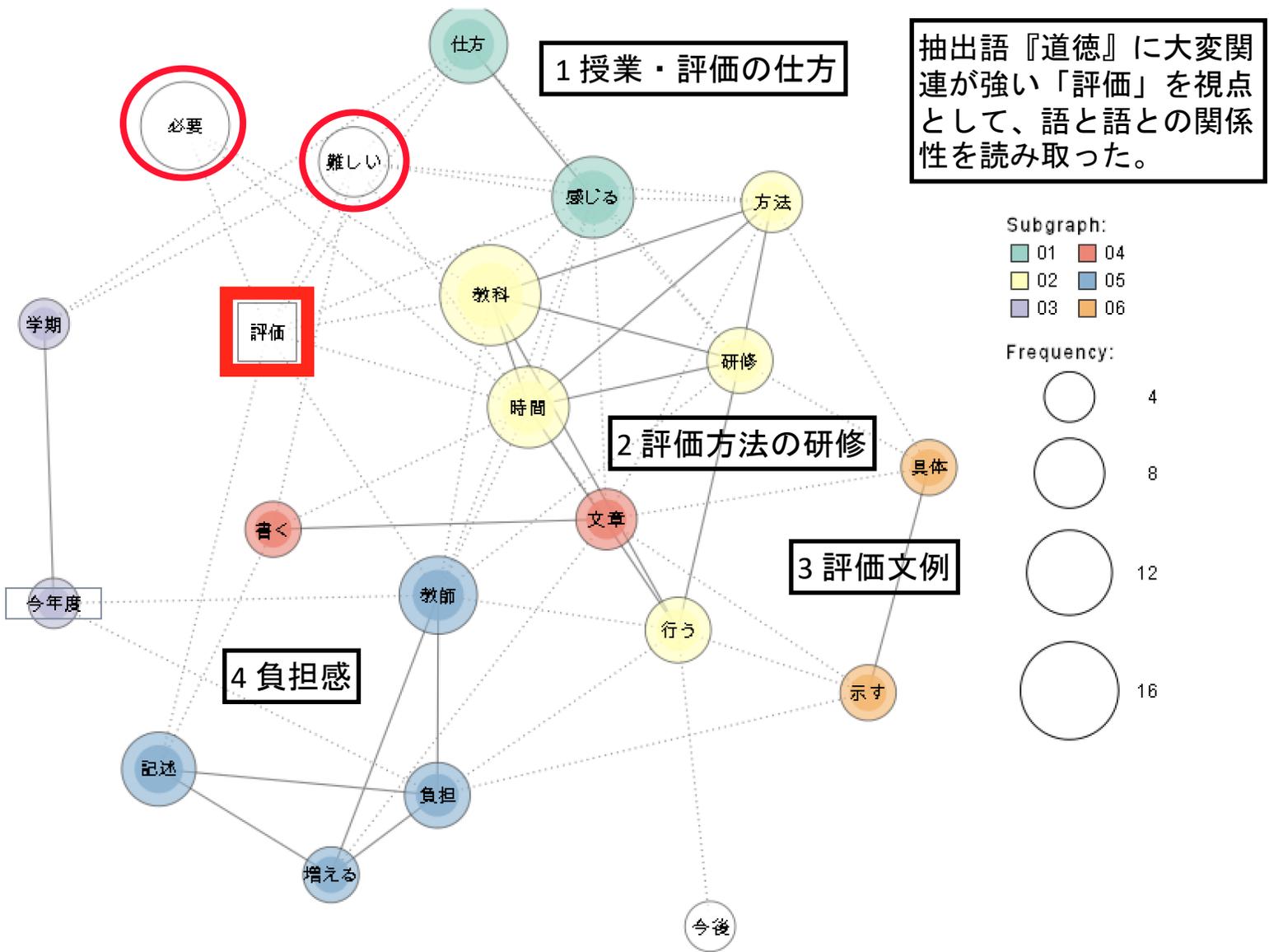
2 道徳科推進のための研修

3 様々な教育内容の対応による負担感



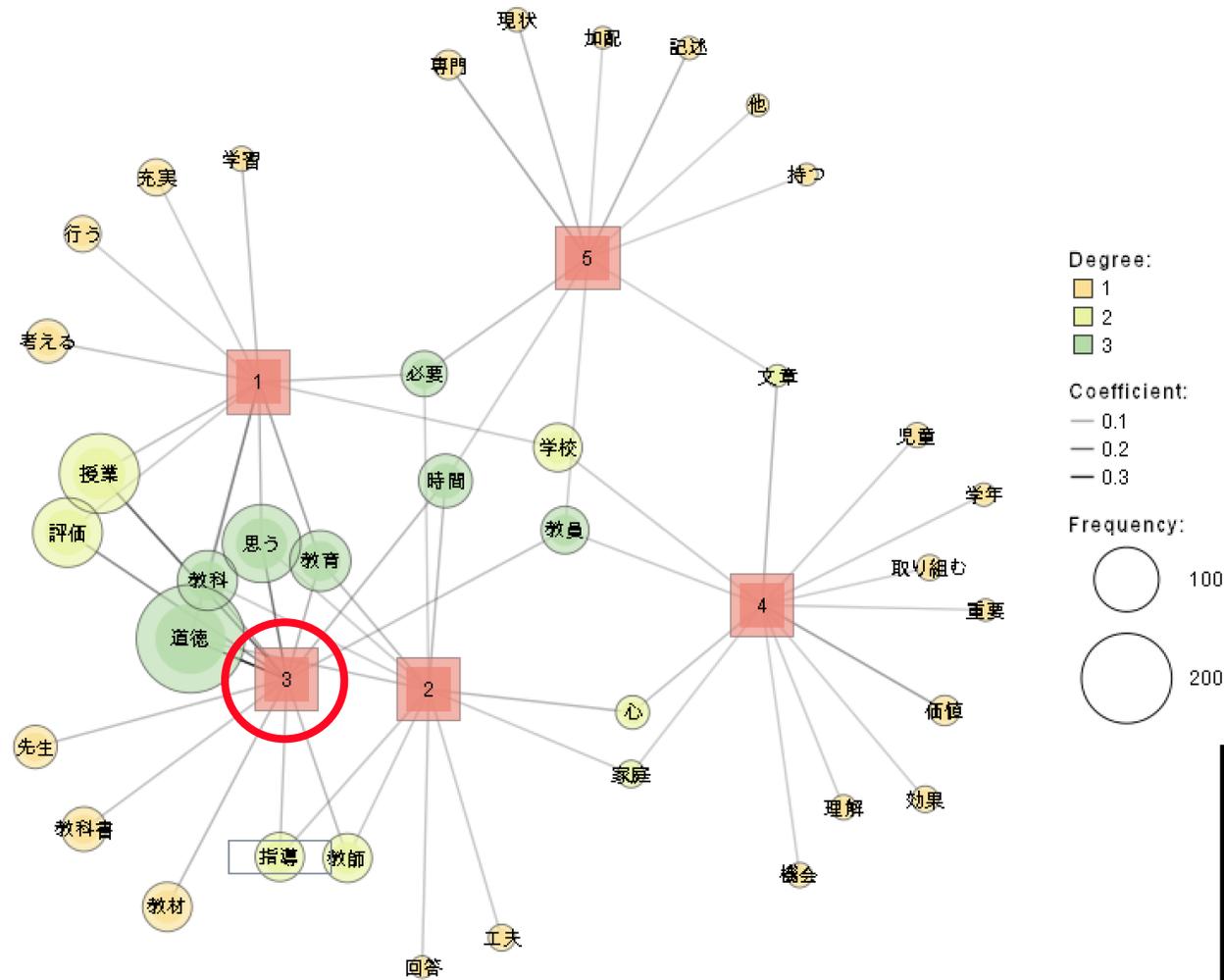
○抽出語間の関係性を可視化できる。
 (円の大小→抽出語数 線のつながり(太さ)→抽出語間の関連性(強さ)
 令和元年度では、アンケートを概観すると、7つの語の集まりが見られる。

3-2 令和元年度 関連語検索(評価)の共起ネットワークから読み取れること



4. 令和元年度 抽出語と外部変数(回答者の職階)との共起ネットワークから読み取れること

(1)職階同士の意識のつながり (2)学校としての動き
 1 校長 2 副校長(教頭) 3 道徳教育推進教師(道徳主任) 4 教務主任、研修主任 5 それら以外



- 「3道徳教育推進教師(道徳主任)」と「1校長」とに関わる抽出語
 - ・主に「授業」「評価」等
- 「3」と「2副校長(教頭)」
 - ・主に「教師」「指導」等
- 「3」と「4教務主任(研究主任)」
 - ・主に「研修」等
- 「3」と「5それら以外」
 - ・主に「時間」等
- 「1」と「2」と「5」
 - ・主に「必要」等

・道徳機養育推進教師(道徳主任)が推進体制の核
 ・各職階と協力的な取り組み
 ・「負担解消」「時間確保」「研修内容」「授業」「組織」の工夫、あり方の検討

自由記述（「ぜひ伝えたいこと」「要望」「意見」「その他」）のまとめ

◎道徳教育(道徳科)の継続的推進について

- 道徳教育(道徳科)の充実を図る必要性、その意義についての理解は一定浸透
- 研修内容において、発問等よりよい授業展開をめざしたいという意欲(時間の確保は十分でない中での取り組み、過重負担がかかっている学校の状況)
- 授業方法、子どもの成長に繋がる評価(指導と評価の一体化)、他教科との関連性に関わる研修のあり方
- 道徳教育推進教師(道徳主任)の活躍と今後の組織としての取り組み
- 「教師の負担感軽減」「時間確保」「研修内容・方法」の工夫やあり方の検討